

越前市大虫町におけるコオイムシの新産地について

松島 良介*・松島 美咲

New locality of *Appasus japonicus* Vuillefroy, 1864 (Hemiptera: Belostomatidae)
from Ômushi-cho, Echizen city, Fukui Prefecture, Honshu, Japan

Ryosuke MATSUSHIMA* and Misaki MATSUSHIMA

(要旨) 福井県越前市大虫町において、コオイムシ *Appasus japonicus* Vuillefroy, 1864が高密度で生息する新産地を確認した。生息環境および生息状況について報告するとともに、周辺の生息地におけるソースとして機能している可能性について示唆した。

キーワード：コオイムシ科, 水生昆虫, 水生カメムシ, 水生半翅

コオイムシ *Appasus japonicus* Vuillefroy, 1864は、水田や池沼などの比較的浅い開放的な水域に生息する体長17.0~25.5 mmの水生カメムシ類である(林・宮本, 2018; 中島ほか, 2020)。本種は、国内では北海道、本州、四国、九州、対馬まで広く分布するが(中島ほか, 2020)、環境省版レッドリストでは準絶滅危惧(環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2020)、福井県版レッドデータブックでは絶滅危惧II類に選定されている(福井県安全環境部自然環境課, 2016)。福井県内における過去の記録については、渡部・保科(2024)によって詳述されているが、近年の確実な産地は、大野市南六呂師、丹生郡越前町細野、越前市小野町の3地点に限定される。

筆者らは、越前市内での調査において、コオイムシが多産する池を発見した。本種の県内における分布を把握するうえで重要な知見となり得るため、追加記録としてここに報告する。なお、同定はSuzuki *et al.* (2013)に基づき、雄成虫の交尾器側葉片の先端形状を確認することにより行った。採集および標本の保管は第一著者が行っている。

コオイムシ *Appasus japonicus* Vuillefroy, Vuillefroy, 1864 越前市大虫町市大虫町, 5 exs., 17-VIII-2025. (図1)



図1. コオイムシ *Appasus japonicus* Vuillefroy, 1864 (スケールバーは5mm)。

採集地は「竹安(たけやす)溜」と呼ばれる、堤高2.0 m、総貯水量2000 m³の農業用ため池である。竹安溜は水生植物が豊富であり、夏季にはヒシ類が水面を覆う。また、池の周縁部は、岸辺から繁茂した植物が水面に垂れ下がっている(図2)。今回の調査では、採集は5個体に留めたが、一回の掬い採りで数個体が玉網に入るほど高密度で確認された。さらに、同時に多数の幼虫も確認されたことから、本生息地において安定して繁殖していることが示唆された。同所的にはクロゲンゴロウ *Cybister brevis* Aubé, 1838やコガシラミズムシ *Peltodytes intermedius* (Sharp, 1873)なども確認された。



図2. 越前市大虫町におけるコオイムシの生息環境(竹安溜)。

本産地は、前述した既知産地のうち越前市小野町から直線距離で約4 kmの地点に位置する。渡部・保科(2024)による小野町の調査では、9月に2人で1時間以上調査を行って1個体採集されたのみであった。このことから、小野町での記録個体は、竹安溜のような高密度の個体群を維持している場所から飛来したものである可能性が考えられる。竹安溜の個体群は、周辺の生息地におけるソース(供給源)として機能して

*株式会社ニデック 〒443-0038 愛知県蒲郡市拾石町前浜34-14
NIDEK Co., Ltd., 34-14 Maehama, Hiroishi-cho, Gamagōri City, Aichi 443-0038, Japan

いる可能性もあり、今後のさらなる調査が望まれる。

大虫郷土史クラブの方への聞き取りによれば、竹安溜は少なくとも100年前には築造されたものであり、長期間にわたって安定した水域が維持されてきたことが推察される。現在、竹安溜は「農業用ため池の管理及び保全に関する法律」に基づき、福井県によって防災重点農業用ため池に選定されている（福井県、2025）。令和7年10月時点での劣化状況評価では「経過観察が必要」とされており、将来的には防災工事等が行われる可能性がある。今後、竹安溜の防災計画が検討される際には、本種が同県内において高密度に生息する貴重な産地である点にも配慮しつつ、防災機能の確保を図る計画が策定されることを期待したい。

末筆ながら、福井県におけるコオイムシの生息状況についてご教示いただいた石川県ふれあい昆虫館の渡部晃平氏、竹安溜について貴重な情報をご提供いただいた天谷政信氏はじめ大虫郷土史クラブの方々に厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 福井県、2025、防災重点農業用ため池に係る防災工事等推進計画。福井県、16p.
- 福井県安全環境部自然環境課編、2016、改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物2016。福井県、536p.
- 林 正美・宮本正一、2018、コオイムシ科 Belostomatidae。川合禎次・谷田一三編、日本産水生昆虫 科・属・種への検索（第二版）、東海大学出版部、337-340.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室、2020、環境省レッドリスト2020の公表について。<https://www.env.go.jp/press/107905.html>。参照日 2026年1月8日。
- 中島 淳・林 成多・石田和男・北野 忠・吉富博之、2020、ネイチャーガイド 日本の水生昆虫。文一総合出版、351p.
- Suzuki, T., Tanizawa, T., Sekiné, K., Kunimi, J. & Tojo, K., 2013. Morphological and genetic relationship of two closely-related giant water bugs: *Appasus japonicus* Vuillefroy and *Appasus major* Esaki (Heteroptera: Belostomatidae). *Biological Journal of the Linnean Society*, **110**, 615-643.
- 渡部晃平・保科英人、2024、福井県における水生昆虫の追加記録。福井市自然史博物館研究報告、(71)、81-86.